

トリフミン®水和剤

(TRIFMINE WP)

登録番号 第16300号

種類名 トリフルミゾール水和剤
triflumizole

性状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 トリフルミゾール 30.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

包装 (100g×25袋)×4箱、500g×20袋

■特長

1. 日本曹達が開発した DMI 剤です。
2. 予防効果に加えて治療効果も有するので、病斑の拡大阻止力や孢子形成阻止力があります。
3. 浸透性に優れるので、散布後に降雨があっても効果にほとんど影響はありません。
4. 幅広い殺菌スペクトラムを有し、多くの作物・病害に登録を有します。
5. 人畜、水産動植物、ミツバチに対して毒性が低い殺菌剤です。

■適用病害名及び使用方法

(2017年4月11日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法	
りんご	斑点落葉病 うどんこ病	2,000~3,000	200~700 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内	散布	
	なし							赤星病、黒星病
かき		うどんこ病						
	ぶどう	黒点病						2,000
もも		うどんこ病		2,000~3,000	収穫前日まで			
	すもも	黒とう病		2,000	収穫前日まで			
おうとう		灰星病、黒星病		1,000~1,500	収穫14日前まで	2回以内		2回以内
	うめ	うどんこ病		1,500~2,000	3回以内	3回以内		
いちじく		灰星病		1,000	定植時及び生育期 ただし、収穫30日前まで	6回以内		6回以内 〔散布は3回以内〕
	株枯病	500		1ℓ/株	収穫7日前まで			
マルメロ	赤星病	2,000	200~700 ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	3回以内	散布	
かりん				収穫前日まで				
あけび(果実)	収穫3日前まで							
マンゴー	収穫7日前まで							

殺菌剤 トリフミン水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法
いちご	じゃのめ病	3,000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	5回以内	散布
さやえんどう 実えんどう ピーマン すいか	うどんこ病	3,000～5,000					
メロン	陥没病	3,000					
きゅうり	黒星病	3,000～5,000					
	うどんこ病						
かぼちゃ	フザリウム立枯病	種子重量の0.3%	-	は種前	1回	5回以内 〔種子粉衣は1回以内〕	種子粉衣(湿粉衣)
にがうり	うどんこ病	3,000	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内	散布
うり類(漬物用)	つる枯病、炭疽病	3,000～5,000			5回以内	5回以内	
トマト ミニトマト	葉かび病	3,000					
	すすかび病						
なす	うどんこ病	3,000～5,000			2回以内	2回以内	
セルリー	斑点病	2,000					
しそ	さび病	5,000	※収穫開始10日前まで	3回以内	3回以内		
ねぎ	萎凋病	50	-	定植直前	1回	1回	5～30分間 苗根部浸漬
		200	セル成型育苗トレイ1箱 または ペーパーポット1冊 〔30×60cm、 使用土壌約5ℓ〕 当り1ℓ	定植前			苗床灌注
たまねぎ	乾腐病	50	-	定植直前	1回	1回	5分間 苗根部浸漬
		50～100	セル成型育苗トレイ1箱 または ペーパーポット1冊 〔30×60cm、 使用土壌約5ℓ〕 当り0.5ℓ	定植前			苗床灌注
		100	セル成型育苗トレイ1箱 または ペーパーポット1冊 〔30×60cm、 使用土壌約5ℓ〕 当り0.5～1ℓ	定植前			

※しその使用時期は収穫開始10日前まで(収穫開始後は使用しない)。



作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	ごま葉枯病 いもち病 ばか苗病	30	-	浸種前	1回	1回	10分間 種子浸漬
		300					24～48時間 種子浸漬
		乾燥もみ 重量の0.5%	乾燥種もみ 1kg当り 30mℓ				種子粉衣 (湿粉衣)
		7.5～15					種子吹き 付け処理 〔種子消毒 機使用〕
麦類	斑葉病、網斑病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	種子重量の 0.5%	-	は種前	3回以内	〔種子粉衣は 1回以内〕	種子粉衣
	うどんこ病 赤かび病	1,000～2,000	60～150 ℓ/10a	収穫14日 前まで			
とうもろこし (子実)	すす紋病	2,000～4,000	100～300 ℓ/10a	収穫30日 前まで	3回以内	3回以内	散布
未成熟 とうもろこし				収穫7日 前まで			
オクラ	うどんこ病 黒斑病、葉すす病	5,000		収穫前日 まで			
こんにゃく	乾腐病	50	種いも1m ² 当り150mℓ	植付前	1回	1回	種いもの 芽基部に 散布
らっきょう	黒球病		-				5～30分間 種球浸漬
食用ゆり	鱗茎さび症						5分間 種球浸漬
しょうが	白星病	1,000	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	散布
葉しょうが				収穫7日 前まで	3回以内	3回以内	
アスパラガス	立枯病		3ℓ/m ²	前まで	1回	1回	灌注
茶	炭疽病	1,500～2,000	200～400 ℓ/10a	摘採14日 前まで	3回以内	3回以内	散布
とうがらし類	うどんこ病	4,000～5,000	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	
ごぼう		1,000			3回以内	3回以内	
にんじん		3,000			3回以内	3回以内	
パセリ	うどんこ病	8,000		収穫30日 前まで	1回	1回	
ふき	さび病	3,000	100～300 ℓ/10a	収穫14日 前まで	3回以内	3回以内	
ふき (ふきのとう)				収穫45日 前まで			
にら				収穫14日 前まで			
にんにく	葉枯病	2,000		収穫前日 まで			

殺菌剤 トリフミン水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2%	-	植付前	1回	1回	球根粉衣
ばら	うどんこ病	3,000~5,000	100~300 ℓ/10a	発病初期	5回以内	5回以内	散布
きく	白さび病	1,000					
花き類・観葉植物 〔ばら、きく〕を除く	うどんこ病	3,000					
樹木類			200~700 ℓ/10a				
たばこ		5,000	25~180 ℓ/10a	収穫10日前まで	2回以内	2回以内	

△ 効果・薬害などの注意

- なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生ずる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
- なしに使用する場合は、MEP剤との混用により薬害を生ずるおそれがあるのでさけてください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は、1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
- りんごに使用する場合、黒星病、赤星病及びうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては落花後20日頃までの初期防除剤として使用してください。
- かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので、注意してください。
- うり類の幼苗期には、濃緑化症状および生育抑制が生ずることがあるので、使用しないでください。
- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に均一に粉衣してから植付けてください。
- スイトピーに使用する場合、薬害が生ずるおそれがあるので、開花期以降は使用しないでください。
- 水稻の種子消毒に使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - 種子消毒は浸種前に行ってください。
 - 浸漬処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1:1以上とし、種もみはサラシ網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - 粉衣処理の場合は、付着をよくするため、湿粉衣としてください。
 - 吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥してください。
 - 処理した種もみは、風乾後、水洗せずに浸種してください。
 - 消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として始めの2日間を行わないでください。その後換水する場合は静かに行ってください。
 - 粉衣処理、高濃度浸漬(30倍)及び吹き付け処理をした種子をは種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
 - 軽度な初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意  

- 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤飲、誤食などのないように注意してください。万一誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。万一眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。

15. 皮ふに対して弱い刺激性があるので、皮ふに付着しないように注意してください。万一付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
16. 使用の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。また、薬剤を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
17. 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
18. かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
19. 街路、公園などで使用する場合は、使用中および使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない、冷涼・乾燥した所に保管してください。

●トリフミン水和剤の上手な使い方

- ①ボルドー液との混用はさけてください。
- ②ハウスなどの施設栽培メロンに使用する場合、特にネット系メロンでは、交配2～3日前から交配20日後までの幼果の時期には、薬害を生ずるおそれがあるので、この時期の使用はさけてください。また、散布後高温が予想される場合は、使用しないでください。
- ③はだかむぎの種子粉衣に使用する場合、軽度な初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復しますので、通常の管理を維持してください。
- ④稲、麦類の薬剤処理した種子は、食料・飼料に用いないよう注意してください。

水稲の種子消毒に使用する場合について

- ⑤薬液の温度はなるべく10℃以下をさけてください。
- ⑥低濃度（300倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
- ⑦箱育苗の場合、は種前に床土に十分灌水し、覆土後の灌水は原則として行わないでください。灌水量が少ないと一般に根上がりの原因となるので、灌水量は少なくとも箱当たり1ℓ以上として下さい。
- ⑧丸型樹脂ポット・型枠育苗方式で育苗される場合には、機械メーカーなどの関係機関の指導を受けるようにしてください。
- ⑨過度な高温での出芽は行わないでください。